



徳島県立農林水産総合技術  
センター畜産研究所  
飼料環境担当 篠原啓子



### ○職場の紹介

徳島県では本年度より、農業、果樹、水産、林業、畜産の各試験場が統合し、農林水産総合技術センターとなりました。各試験場も〇〇研究所と名称が変わって新たなスタートをきることとなりました。国の試験場が独立行政法人化しましたが、本県の試験研究機関も独自性のある研究開発や、開発された技術のより早い普及伝達が求められるようになりました。

畜産研究所では、乳肉用牛担当、養豚養鶏担当、飼料環境担当、経営担当と4つの担当分野があり、県内における畜産技術情報の発信基地となるよう日々努めています。

### ○担当分野の紹介

当研究所の環境施設は、平成8年度に農家が実際に見て体験できる実証展示施設として整備されました。(堆肥化施設は、牛ふんはエンドレスサークルコンポ、通気堆積発酵槽。鶏ふんは縦型コンポ、ペレットマシン。牛舎から出る汚水の処理は神奈川方式の回分式活性汚泥法。脱臭施設はロックウール脱臭と木クズ脱臭等)。これらの施設については、農家が施設整備を行う際のコスト、堆肥化や汚水処理、脱臭効果のデータ収集を行ってきました。

また、本県はブロイラーの産地ですが、堆肥化する際の基礎的データや堆肥化過程の追跡等、データが少なかったため、この点について特に取り組んできました。

現在は、中小規模の農家に低コストで提供できる汚水処理施設について、または既存の施設にアタッチメントをつけて再浄化できるような(夢のような……)ものはできないものかと試行錯誤中です。が現実には厳しく、農家も放流できる汚水処理施設まで手がまわっていないのが現状です。

### ○堆肥化施設設計検討委員会

#### (アドバイザーの会)発足

本県のアドバイザー研修参加人数はこれまでで、堆肥化10数名、汚水処理が3名となりました。農家で直接堆肥化施設の指導をする各農業改良普及センター、家畜保健衛生所等の職員が主に参加してきましたが、同じアドバイザーの研修をうけながらも各人のつくる堆肥舎設計が微妙に異なり、個人的に連絡をとりながら現場に対応してきました。また、前述したとおり、ブロイラーの堆肥化施設設計については、アドバイザー研修の数値プラス若干の補足が必要でした。そこで堆肥化施設設計の認識をアドバイザーの間で共通のものにするため、堆肥化施設設計検討委員会なるものを発足し、堆肥化施設設計マニュアル徳島県版を早急に作成しようとしているところで

す。

現在月1回集まり話し合いを行っていますが、普及センター、家畜保健衛生所の環境担当の人がほとんど集まるので、これまでの経験談やその月の情報交換など話題も盛りだくさんとなっています。何より多人数で問題を話し合えるので私のような若輩ものにとっては鬼に金棒的な存在です。

### ○今後の抱負

今年はBSEの発生など、落ち着いて試験研究などやってられない状況でもありましたが、我々としても平成16年11月の法律の規制の中でどういうことがおこるのかのシュミレーションと、農家が法の規制をクリアできる手だて、技術を的確に情報提供できるよう落ち着いて取り組まなければと考えています。そんな時強い心の支えはアドバイザー研修で知り合えた全国の人たちで、今後も情報交換を行っていきたいと考えています。